

厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
分担研究報告書
ポストコロナ時代における人口動態と社会変化の見通しに資する研究
「国勢調査における後置番号別人口－2020 年」

研究分担者 林玲子 国立社会保障・人口問題研究所

研究要旨

後置番号 4 人口は施設を含む調査区の人口であるが、2020 年国勢調査個票を用いて集計したところ、2020 年の総人口は 2010 年よりも 191 万人減ったが、後置番号 4 人口は 1,633,317 人から 2,064,414 人へと 43 万人の増加となっていた。後置番号 4 人口は女性で多く、高齢になるほどその割合が増加する。大都市圏で少ない傾向があるのはこれまでと同様である。

総人口の減少に応じ高齢者数の増加率は逡減しており、今後の介護施設の需要と実態がどのように変化するのか、今後公表される 2025 年国勢調査の結果とあわせ、引き続き分析を続ける必要がある。

A. 研究目的

国勢調査においては、一人の調査員が担当する区域として概ね 50 人程度の妥当な規模の調査区が設定されており、令和 2 年の国勢調査においては、1,064,664 調査区が設定された（羽淵 2022）。これらの調査区は、その地区の種類により 1 から 9 までの後置番号が付されている。国民生活基礎調査およびその後続調査である社会保障・人口問題基礎調査は、後置番号 1（一般）および 8（寮）の調査区を抽出しており、近年増加の傾向がある高齢者施設を含む後置番号 4 の地区が含まれていないことから、筆者はその補正を行うため、個票が利用可能な 1980 年から 2010 年の国勢調査の後置番号別人口について分析を行った（林 2017）。本稿は、それに続き、2020 年国勢調査の後置番号別人口を集計・分析することを目的とした。

B. 研究方法

本研究において、国勢調査個票利用申出を行い、提供を受けた個票を用いて集計・分析を行った。

（倫理面への配慮）

個票利用は、統計法を遵守し、適正に行った。

C. 研究結果

1. 後置番号別人口の推移（1980～2020 年）

後置番号別の人口を表 1 に示した。2020 年の総人口は 2010 年よりも 191 万人減ったが、一般調査区（後置番号 1.一般）ではさらに 217 万人減っているところ、施設調査区（後置番号 4.施設）は 1,633,317 人から 2,064,414 人へと 43 万人の増加となっている。

表 1 後置番号別人口（1980～2020 年）

後置番号	1980 年	1990 年	2000 年	2010 年	2020 年
1.一般	114,553,436	120,983,888	124,361,762	125,337,681	123,162,641
2.森林	551,542	480,894	400,315	331,294	272,850
3.工場	60,446	58,996	52,457	42,967	32,848
4.施設	822,145	1,037,175	1,281,471	1,633,317	2,064,414
5.刑務所	52,979	52,259	63,278	76,280	48,251
6.自衛隊	119,073	123,189	95,206	86,313	93,639
7.駐留軍	655	736	881	17	23
8.寮	899,690	873,778	670,256	549,416	471,410
9.水面	430	252	217	67	23
計	117,060,396	123,611,167	126,925,843	128,057,352	126,146,099

資料：国勢調査（個票）

後置番号 4 人口（施設人口）割合について、性・年齢別にみると（図 1）、合計で 1.6%のところ、女性は 2.1%と男性の 1.1%の 2 倍程度大きく、年齢別にみると 70 歳代から大きく上昇し、100 歳以上では 45%が後置番号 4 の調査区に居住している。女性の後置番号 4 割合が高いのは、超高齢者の女性割合が大きいことによるものと考えられる。

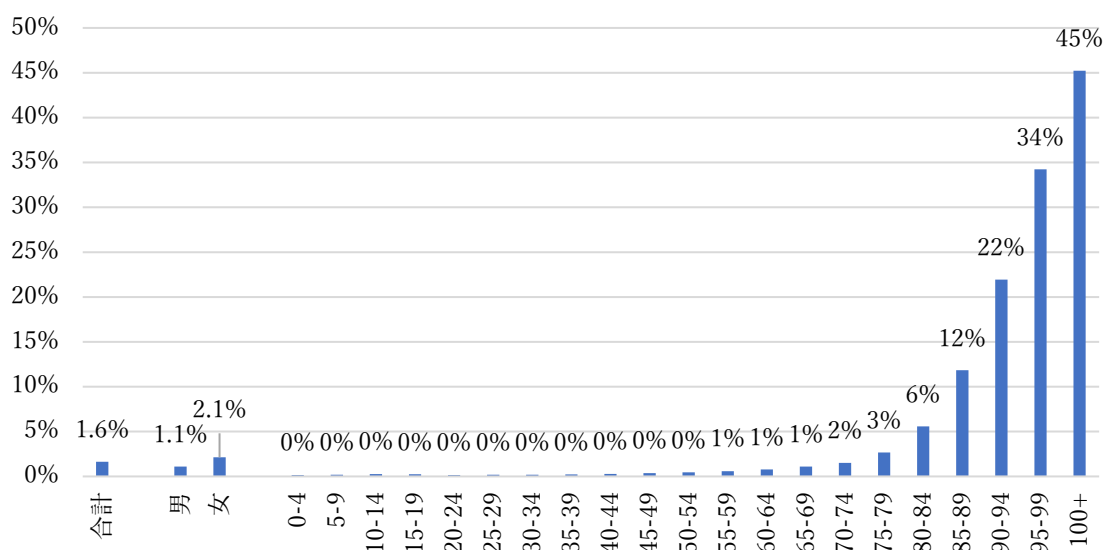


図 1 性・年齢別の後置番号 4 人口（施設人口）割合

都道府県別に後置番号 4 人口割合をみると（図 2）、東京圏（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県）、宮城県で低く、近隣県に高齢者が施設入居のために移動している状況（林 2017）が現在も続いているのではないかと考えられる。しかしながら関西においては、滋賀県よりも大阪府、京都府の方が割合が高く、東京圏と同様の状況は認められない。広島県、沖縄県で割合が低い、この要因は別途検討を要する。

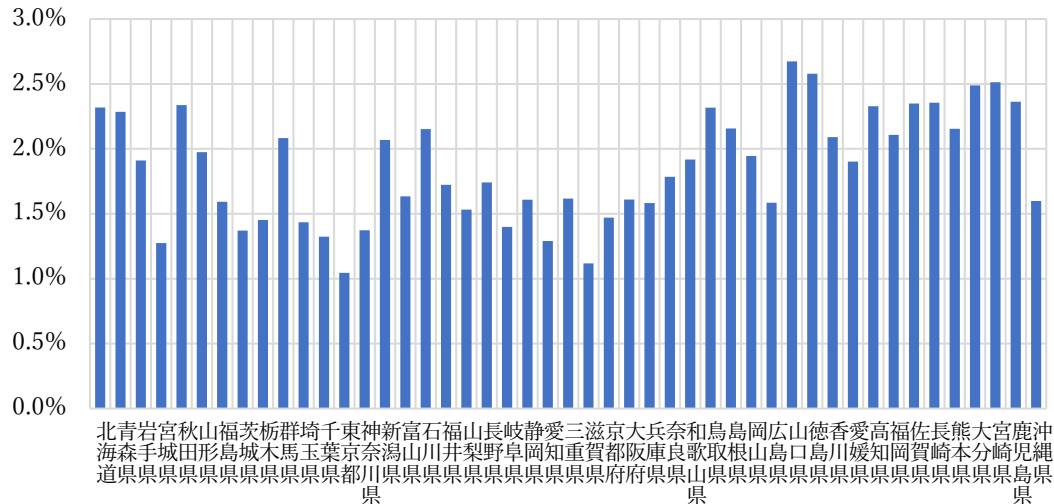


図 2 都道府県別の後置番号 4 人口（施設人口）割合

D. 考察

2020 年の国勢調査においても、後置番号 4 人口は増加の傾向にあった。しかしながら今後、高齢者も人口減少の方向にあり、介護施設に対する需要がどのように変化するのか、後置番号 4 人口、また国勢調査の公表統計として示される病院・施設人口とあわせ、検証する必要がある。

後置番号 4 人口の情報は、健康寿命の施設人口補正のために用いることを想定している。2016 年までの健康寿命の増加は、後置番号 4 人口で補正しても増加していたことが示されているが（林 2018）、それ以降、2019 年、2022 年の健康寿命が後置番号 4 人口の増減により影響をうけているのかどうか、今後確認する必要がある。

E. 結論

都道府県別年齢 5 歳階級別の後置番号別人口は別添エクセルファイルにとりまとめた。2020 年も後置番号 4 人口は増加しているが、総人口の減少に応じ高齢者の人口増加率は減速しており、今後の介護施設の需要と実態がどのように変化しているのか、今後公表される 2025 年国勢調査の結果とあわせ、引き続き分析を続ける。

F. 引用文献

羽瀨達志 (2022) 「国勢調査の地域区分と地理情報システム 「jSTAT MAP」による小地域集計の利用について」独立行政法人統計センター.

https://www.nstac.go.jp/sys/files/24_06_01_3paper.pdf

林玲子 (2017) 「国勢調査における後置番号別人口」 Working Paper Series(J), No.15, 国立社会保障・人口問題研究所. <http://doi.org/10.50870/00000067>

林玲子 (2017) 「施設人口と高齢者の移動」厚生労働科学研究費補助金政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業) 「人口減少期に対応した人口・世帯の動向分析と次世代将来推計システムに関する総合的研究」平成 28 年度 総括研究報告書、pp.105-123.

<https://mhlw->

[grants.niph.go.jp/system/files/2016/161011/201601004A_upload/201601004A0009.pdf](https://mhlw-grants.niph.go.jp/system/files/2016/161011/201601004A_upload/201601004A0009.pdf)

林玲子 (2018) 「施設人口を考慮した健康寿命の動向」『人口問題研究』第 74 巻第 2 号、pp.118-128. <https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/18740203.pdf>

G. 研究発表

1. 論文発表

林玲子 (2025) 「動態積上による日本人生年別人口の再構成と静態統計との比較—1944/45 年の死亡構造推計をふまえて—」『人口問題研究』第 81 巻第 2 号, 国立社会保障・人口問題研究所, pp.147-166.

Hayashi, Reiko (2025) *Demographic Change and Policy Responses: The Case of Japan*, Springer Briefs in Population Studies, Population Studies of Japan, Springer.

2. 学会発表

Hayashi, Reiko “Reconstruction of Death Structure of Japan in 1944 and 1945”, 30th International Population Conference (IPC2025), Poster Session P4, Brisbane Convention & Exhibition Centre, Brisbane Australia (2025.7.17)

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし